

「尖閣諸島防衛の政策提言」

明治大学 政治経済学部 政治学科 一年
野田寛人

・テーマ設定理由

昨年の平成 22 年 9 月、「尖閣沖中国漁船衝突事件」が起きました。この事件の中国政府や日本政府の対応がかなり印象に残りました。また、今年の民主党代表選の最中にも実は尖閣諸島の領海内に中国の漁業監視船が来ていたにもかかわらず、全く代表選で争点になりませんでした。その残念な思いからも提言させていただきます。

・政策提言

時間の都合上「台湾との石油共同開発」という点のみに関して発表致します。「台湾との石油共同開発」ということですが、これによる目標としては・石油開発によるエネルギー安全保障の促進・日体連携によるシーレーンの確立・将来的な石油輸出による外貨獲得・中国への輸出、です。700 兆円分の石油があると言われ、日本の船舶が多く通る尖閣沖を敢えて台湾と共同開発することでシーレーンを守っていく予防線を張ろうというものです。しかし石油掘削の技術的問題、そして台湾は公式的には尖閣諸島の領有権を主張しているという問題もあります。よって、プロセスとしては日台 FTA の創設による経済連携強化、掘削技術分野への投資、そして台湾保釣連盟が尖閣は日本領だと認めたこと等を宣伝し、浸透させていくことをしてゆくべきではないかと思えます。その延長としての共同開発を押し進めてゆくことが尖閣や日本を守ってゆく一助になると考えます。

・長島昭久議員のコメント

面白く、個人的には台湾は好きなのでアトラクティブな案だと思います。しかし、これをやった場合中国との関係をどうマネージしてゆくののかということです。日中国交正常化の時に



日本は台湾を切り捨てたのに、大々的に台湾と共同開発をすれば中国は黙っていません。今や日中間の貿易額は 2500 億ドルほどあり、昨年 9 月のようにレアアース輸出禁輸、民間人拘束等を行ったこと、そして近年多くの船を尖閣沖に出し、強く言い始めたことを考えると相当な日中間の摩擦となります。中国は海洋資源開発に躍起になっているために、いきなり海底資源を台湾という中国が国と認めていない相手、日本との交流を常



に阻害し続けている相手と掘削するのは非常に難しいことです。私は台湾とはお互いの漁業関係者の利益を守るという点で漁業交渉をしたらよいと思います。台湾にはまだまだ尖閣諸島に関しては強硬派の人達がいるので何とも言えませんが「尖閣に関しては穏便にやりましょう」と呼びかけ、台湾が尖閣諸島を日本の領土であるとい

うことまでは言えないまでも、日本の実効支配を阻害しない程度に行動するという事になればよいと思います。こうなれば実は困るのは中国なのです。なぜなら今何が日本にとって問題なのかということと尖閣諸島に関して中国・台湾の意見が一致していることだからです。だから、台湾を引き込むという案は良いと思います。ただいきなり海底資源の開発、ということではなく漁業から話を進めていった方がよいのではないかと思います。むしろ重要なのはどのような実効支配の事実を尖閣に積み重ねていくか、ということです。例えば韓国が竹島に基地を作って実効支配をしています。竹島を取り返すとなれば武力を使う以外に方法がありません。当然そのようなことは出来ません。従って、尖閣を守っていく手段として考えてもらいたいのは具体的な実効支配をしていくこと、そしてそれはどのような段階から推し進めていくかということです。例えば実効支配のためにいきなり自衛隊を持って行く、という案があります。しかしこれは発言している方は気持ちが良いかもしれませんが、国際社会的には全く筋の通らない話です。中国との関係をマネージ出来ない案は机上の空論に過ぎません。本当に「政策」にしてゆくのであれば、どのようなあたりから固めていくか、例えば国際的な気象観測設備を置くなどして国際的組織に管理させたりする等、何段階も階段を作っていくという案があればよいと思います。

・政策提言を終えて

尖閣諸島の防衛という点に関して政策提言をさせて頂きました。敢えて台湾と尖閣沖の石油掘削を進めることで豊富な石油とシーレーンを確保するという意図でした。長島代議

士には面白い案だとコメントを頂きつつも、やはりこの政策は中国との関係を維持できなくなるとご指摘を受けました。代議士はまずは台湾と漁業交渉をするのが良いとおっしゃられました。現在は台湾と中国の利益が一致しているということが問題なため、台湾を引き込むという考えは評価をして頂いたものの、政策として考えるならば、他には実効支配の具体的方法など「どのような段階から」進めてゆくべきなのかを考えることが大切だと教えて頂きました。確かに自分の案を見返してみるともう少し初期の段階から最終的に尖閣諸島を守るプロセスが作れたのかもしれないと思います。他の諸政策もこの政策提言と同様に目的のためには段階が必要であるということが当てはまるのだらうと思いました。

